



六義園

～風光明媚な
都会のオアシス～

(東京都文京区)



岩崎 彌太郎



岩崎 久彌

写真提供：三菱史料館

都内有数の文教地区・東京都文京区にある六義園は、五代将軍・徳川綱吉の側用人・柳澤吉保によって1702年に築園された、江戸時代を代表する大名庭園。万葉集や古今和歌集に詠まれた紀州の「和歌の浦」の景色、その周辺の景勝地等の風景を再現した回遊式築山泉水庭園です。

幕末まで頻繁に使用されていたものの、明治維新後に荒廃してしまった六義園を、三菱の創業者・岩崎彌太郎が買い取り、修復に乗り出しました。彌太郎の没後、庭園は第二代社長の彌之助(彌太郎の弟)、第三代社長の久彌(彌太郎の長男)が引き

継ぎました。久彌は名園の維持、整備に尽力する一方、この庭園を市民の憩いの場にしようと考え、1938年に東京市へ寄附。一般に公開され、その後1953年に国の特別名勝に指定されました。現存する数少ない大名庭園の一つとなった六義園には、大きな池を取り囲むように樹木が生い茂り、園内を歩けば名勝の景観と四季折々に咲く花が、訪れた人の目と心を癒してくれます。すぐ近くには同じく三菱ゆかりの地である東洋文庫(裏表紙をご覧ください)もありますので、併せて訪問してみたいか

六義園の見どころ PICK UP!



庭園の入り口となる内庭大門をくぐるとまず出迎えてくれる名物のシダレザクラをはじめ、園内には季節ごとに咲く美しい花々が楽しめます。また、シダレザクラやモミジのライトアップなどのイベントも行われるほか、ボランティアガイドによる庭園散策もお薦めです。

季節ごとの
美しい
花々

～ 六義園で見られる花々 ～

春	サクラ(シダレザクラ、ソメイヨシノ)、ツツジ、サツキなど	夏	タイサンボク、モクゲンジ、ハギ、アジサイなど
秋	紅葉(ハゼ、モミジ)など	冬	ロウバイ、ツバキ、ウメなど

茶屋

から眺める
庭園風景

園内にはいくつかの茶屋があり、そこから見る景色はまるで都会の中にいることを忘れさせてくれる美しさです。「滝見茶屋」では屋なお暗い樹林の中に水しぶきを上げる溪流の姿が見られ、「つつじ茶屋」では11月になると紅葉に囲まれます。また、「吹上茶屋」では、庭園の中心にある池とそこに浮かぶ中の島を見ながらお茶やお土産の買い物ができます。



滝見茶屋



つつじ茶屋

アクセス

住所: 東京都文京区本駒込 6-16-3
電話: 03-3941-2222
(六義園サービスセンター)

交通: 駒込駅 (JR 山手線南口、東京メトロ南北線 2 番出口) 下車、正門まで徒歩 7 分。千石駅 (都営地下鉄三田線 A3 出口) から正門まで徒歩 10 分。
※駐車場はありません。

入園料、開園時間などはホームページでご確認ください。

